



協会webサイト

- 被爆80周年 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
- 80ACTIONS—平和のためにできる80のこと
- 大石芳野写真展「戦禍をこえて」
- 核兵器禁止条約フォーラム
- 長崎市内中学生による「平和学習発表会」
- ジャーナリスト伊藤明彦 特別展
- ながさき平和大集会 秋月平和賞表彰
- 会員の広場
- 山口仙二 魂の軌跡「ノーモア・ヒバクシャ」
- ナガサキ原爆写真展 市立図書館で開催
- 全国から参加 青少年ピースフォーラム
- 「県外原爆・平和展」香川と鹿児島で開催
- 追悼平和祈念館 小学生館内ツアー
- 被爆者の思いを歌声にのせて 長崎平和音楽祭
- 10月からの被爆80年記念事業
- TOPICS(天皇ご一家 原爆資料館を訪問 ほか)



青少年ピースフォーラムで扇形をイメージした「出島ポーズ」で若者と記念撮影をするマレーシアのマハティール元首相(詳細は4ページ)

# 被爆80周年 長崎原爆犠牲者慰霊 平和祈念式典



長崎に原爆が投下されてから80年の節目を迎えた今年の平和祈念式典には、石破茂総理大臣をはじめ94の国・地域からの代表を含む約2,600人が参列しました。

式典ではこの1年間に亡くなった3,167人の被爆者の名前が記された新たな原爆死没者名簿が奉安されました。

平和宣言の中で鈴木史朗 長崎市長は「『武力には武力を』の争いを今すぐやめてください。対立と分断の



写真提供:長崎市

悪循環で、各地で紛争が激化しています。このままでは、核戦争に突き進んでしまう——と強い口調で訴えました。そして日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の代表委員だった山口仙二さんの国連での「ノーモア・ヒバクシャ」の演説を引用し、「長崎が最後の被爆地であり続けるため尽力する」と決意表明しました。

被爆者代表で横浜市在住の西岡洋さん(93)は「平和への誓い」の中で、県立長崎中学校の生徒だった被爆当時の体験を語るとともに、「核兵器を使ったら全てがおしまいになる」として核兵器の使用禁止を訴えました。

式の終盤、原爆により大きな被害を受けた城山小学校と山里小学校の児童あわせて約100人が、福山雅治さん作詞作曲の「クスノキ」を初めて合同で合唱しました。

また今年には4年に一度の「平和首長会議」の総会が8日〜10日に長崎市で開催され、世界各地から約230人が参加。核廃絶を目標として都市間の連帯を強化するとして「ナガサキアピール」を採択、平和祈念式典にも参列しました。

悪循環で、各地で紛争が激化しています。このままでは、核戦争に突き進んでしまう——と強い口調で訴えました。そして日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の代表委員だった山口仙二さんの国連での「ノーモア・ヒバクシャ」の演説を引用し、「長崎が最後の被爆地であり続けるため尽力する」と決意表明しました。

## 被爆80年記念事業

### 「80ACTIONS-平和のためにできる80のこと」

この80回の投稿は、長崎平和推進協会のインスタグラムで見ることができます。

被爆80年の今年、より多くの方が平和のためのアクションを起こせるように、平和のためにできることを5月21日〜8月9日までの80日間、インスタグラムで毎日投稿しました。

平和に関する様々なアクション、イベント、被爆証言など毎日紹介していくうちにフォロワーも増え続け、最後には1,100人を超えました。

8月9日、80回目の投稿は平和祈念式典での平和宣言。宣言にもあった「永遠に『長崎を最後の被爆地に』するために」、小さくてもできることを見つけ、アクションを積み重ねていきましょうと締め括りました。



## 被爆80年記念事業

### 被爆者 山口仙二 魂の軌跡 「ノーモア・ヒバクシャ」

8月31日、原爆資料館ホールで、被爆者山口仙二さんの半生を題材とした朗読劇「ノーモア・ヒバクシャ」が上演されました。

長崎平和推進協会音楽部会を中心に朗読と音楽を融合した舞台で、100人を超える多くの方が来場してくださいました。

1982年ニューヨークで開かれた第2回国連軍縮特別総会に被爆者代表として初めて参加し、国内外に向かつて反核と被爆者援護を訴え続けた山口仙二さん。作品には山口仙二さんの「核兵器廃絶」を広く訴えていく姿が描かれており、来場者の皆さんの心にも響いたことと思います。



# 長崎市立図書館で原爆写真展 約2千人の市民が来場



長崎平和推進協会写真資料調査部が、不勉強ながらさき市立図書館多目的ホールを会場に、7月23日～8月4日の日程で「被爆80年ナガサキ原爆写真展」を開催しました。今回は実物大に拡大したフラットマン（長崎原爆）の写真など約60点を展示。このうち、毎日新聞写真部員だった早川弘さんが1945年8月下旬から9月上旬に撮影した写真8枚が初公開されました。長崎市

撮影：草野優介



撮影：草野優介



中心部での開催ということもあり、親子連れなど2,000人近くが訪れる盛況ぶりでした。今回の特徴の1つは「写真展ユースボランティア」の皆さんに協力してもらったことでした。事前研修により原爆被災写真についての知識を身につけた小学校高学年～大学生の約60人が、来場者に展示写真の解説を行う「ガイド役」として活躍しました。来場者からは「子供たちが写真についてよく勉強していて感心した」「これまで見たことがある写真でも、解説を聞いて初めて知ったエピソードがあった」などの声が聞かれ好評でした。ユースボランティアはその後も原爆被災写真についての学習を続け、8月24日～9月21日に自分たちが選んだ写真を展示する「企画展」を実施、被爆の実相を後世に伝える新たな手段として注目を集めています。

## ICUの学生も写真展のガイド役に

当協会では今年も国際基督教大学（ICU）の教育プログラム「サービスマーケティング」を受け入れ、3人の学生が派遣されました。原爆資料館の見学や被爆遺構めぐり、被爆体験の聴講などを通して原爆被災の実相を学ぶとともに、長崎大学RECNの講義受講などを通して核兵器の問題について学びました。また、ユースボランティアの一員として研修を受け、市立図書館での写真展では来場者に被災写真について解説しました。



被爆者・丸田和男さんから当時の話を聞くICUの学生3人

## 大石芳野写真展 「戦禍をこえて」

～長崎の痕／戦禍の記憶～

被爆80年記念事業として9月15日～25日、ドキュメンタリー写真家・大石芳野さんの作品を集めた写真展を国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で開催しました。大石さんはベトナム戦争の惨禍に見舞われたベトナム・ラオス・カンボジアや、宗教民族の対立から紛争が絶えないアフガニスタン・ソマリアなど戦禍に暮らす子供たちの姿を撮影してきました。

長崎の被爆者とも交流が深く、6年前には約130人の被爆者を撮影した写真集「長崎の痕（きずあと）」を出版しました。会場には被爆者の写真を中心に61点を展示。被写体となった被爆者が会場を訪れ、大石さんと撮影当時を懐かしむ姿もみられました。

会期初日は会場オープニングセレモニーを行い、大石さんが来賓らに展示されている作品の背景や撮影時のエピソードなどについて説明しました。また原爆資料館ホールでは記念講演会を開催し、大石さんと被爆者で医師の朝長万左男さんとの対談などを行いました。



# 青少年ピースフォーラム

8月8日～9日、青少年ピースフォーラムを開催しました。

このフォーラムでは青少年ピースボランティアが中心となって、全国の自治体や米国セントポール市からの参加者約360人と2日間、被爆の実相や平和の尊さについて学びます。

1日目は長崎市平和会館で三瀬清一郎さんの被爆体験を聞いた後、原爆資料館周辺の被爆遺構を巡るフィールドワークや戦時中の疑似体験など、コースに分かれて学習を行いました。

2日目の午前中、自治体からの参加者は平和祈念式典や長崎市立中学校での平和集会に参加し、午後には出島メッセ長崎で意見交換を行いました。今年度はテーマを変更し、「違っていてどういこと?違っていて悪いこと?」について話し合いました。新しいテーマに、青少年ピースボランティアは進行など苦戦していた様子も見えましたが、6月から練習を重ねてきたこともあり、無事にまとめることができましたようです。最後には各班でメッセージを書いた台紙を貼り合わせ、「平和には無限の可能性がある」との思いを込めたピースアートを完成させました。

また今年度は100歳となったマレーシア元首相、マハティール・ビン・モハメド氏による特別講演も実施。第一次世界大戦から第二次世界大戦、マレーシアと日本の関わり、現在の世界情勢など幅広くお話しいただき、「他国から見た戦争」や「日本の加害の歴史」なども知ることができました。またピースアートにもメッセージをいただきました。

参加者からは「被爆者から話を聞くことで、心が伝わってきた」、「意見交換のテーマは各国で争いが起きる原因を根本的に見つめていて、戦争が起こる理由、私たちにできることを考えることができた」、「特別講演で、日本からではなく、海外から見た日本、戦況を知ることができてよかった」などたくさんの感想が寄せられました。

(青少年ピースフォーラムは、長崎市からの受託事業です)



## 核抑止依存からの脱却など論議

# 核兵器禁止条約フォーラム

日本が核兵器禁止条約に参加する道筋を考える「核兵器禁止条約フォーラム」が8月7日、追悼平和祈念館で開かれました。去年に続き2回目の開催で、「核兵器をなくす日本キャンペーン」が主催し、「核抑止」依存からの脱却に向けた課題を、国際関係や安全保障の専門家が議論しました。(共催:長崎平和推進協会)

基調講演では、条約の成立に尽力したアレクサンダー・クメントさん(オーストリア外交官)が、「これまで一歩間違えれば核戦争につながっていたケースが数多くあり、『核抑止』がうまく機能するというのは、あやふやで脆弱な仮説。未来も核が使われない保証はなく、安全保障の解決策にはならない」と指摘。核が使われた場合の紛争当事国にとどまらない環境や社会への影響を考えれば、「核兵器禁止条約は科学的知見に基づいて作られた、人類の安全を守るために必要な条約」と訴えました。



# 高松市(香川県)・鹿児島市(鹿児島県)で開催 県外原爆・平和展

7月から8月にかけて、2つの自治体で「県外原爆・平和展」を開催しました。

長崎原爆資料館所蔵の被災資料や写真パネルをはじめ、証言映像や体験記など、令和元年度に当協会が本事業を受託して以降、最も多い資料数を展示しました。

また、写真資料調査部会員による展示解説や継承部会員による被爆体験講話会も開催し、多くの方にご来場いただきました。

高松市の講話会では、広島で被爆された方と当協会継承部会の堀田武弘副部長のお二人が登壇し、それぞれの体験をお話しました。来場者からは、「具体的な被爆の悲惨さを聞いて、心深く戦争は絶対してはいけないと思った」「“平和が一番、命が一番”という言葉に感銘を受けました。戦争を知らない我々世代が受け継ぐことが大切だと感じた」という声をいただきました。特に高松市在住の方からは、「あまり見聞する機会のない長崎原爆の実相を知る貴重な機会になった」との感想をいただき、様々な地域で展示を開催する意義を再確認できました。

鹿児島市では、長崎原爆に関する展示だけでなく、昭和館(東京都)の収蔵資料や鹿児島市民からの寄贈資料などを中心とした「鹿児島市の戦災と復興資料・写真展」も同時開催。戦時中の暮らしや、当時の鹿児島市の状況、資料を寄贈された方々の平和への思いなども感じられる展示になりました。

オープニングセレモニーには、写真資料調査部会の松田斉部会長が出席し、鹿児島市長をはじめ多くの市民の方々に解説しました。また、継承部会の八木道子部会長による被爆体験講話を2日間にわたって開催し、両日とも親子連れの聴講者が目立ちました。講話終了後にもたくさんお声がけいただき、世代を超えた「継承」の機会となりました。

開催場所	会期	会場
香川県高松市	7/24 ~ 8/15	瓦町FLAG 8階 アートステーション ギャラリー
鹿児島県鹿児島市	8/11 ~ 8/17	中央公民館 ホール

(県外原爆・平和展は、長崎市からの受託事業です)



## 平和学習発表会

8月20日、長崎市平和会館で「平和学習発表会」を実施しました。この発表会は平成18年度から実施しており、長崎市内の中学生が、日頃取り組んでいる平和学習の成果などを発表します。お互いの活動を知ることで、さらに活動を発展させる機会となっています。

今回は26校73人の中学生が参加し、グループに分かれて自分たちが取り組んできた活動を紹介しました。全員の発表後には、取り組みを聞きながら書いたメモを発表者にそれぞれ渡し、取り組みに対しての感想や発表を聞いて感じたことなどを伝えました。お互いに感想を言い合うことで、ちゃんと伝わったということが分かるためか、発表後には自然と拍手が起こっていました。

参加者からは「他校でやっている活動で、自分たちもやってみたくてよかった」、「色々な平和の形があると感じた」などの感想が聞かれました。

青少年ピースボランティアが進行などを担当し、会の最後には活動紹介を行いました。「高校生になったら、このような活動ができる」と感じた参加者が、今後、登録してくれればと思います。

(平和学習発表会は、長崎市からの受託事業です)



## ジャーナリスト伊藤明彦 特別展



追悼平和祈念館では8月7日から9月30日まで長崎出身のジャーナリスト伊藤明彦氏の活動についてスポットをあてた「ジャーナリスト伊藤明彦 特別展」を開催しました。特別展では、伊藤明彦氏が人生をかけて取り組んだ「被爆者の声の収録」活動を紹介しました。伊藤明彦氏は、全国の被爆者およそ2,000人を訪問し、1,000人あまりの「声」を収録しました。特別展では、その際使用された録音機やオープンリールテープを展示するとともに、録音された証言音声を聞くことができるコーナーを設けました。また、パネルでは収録を約半数の方に断られたメモ「断られた人のこと」等も展示しました。

## 追悼平和祈念館 小学生館内ツアー



8月24日、被爆80年記念イベントとして小学生を対象とした「見よう・聞こう 考えよう in 追悼平和祈念館」を実施し、小学生と保護者あわせて28人に参加していただきました。

クイズに答えながら楽しく学べる祈念館の平和学習ノートを手には、スタッフの説明に真剣に耳を傾け、答えを考えたり探しながら祈念館を探検しました。また、ユースボランティアによる原爆写真展の説明を聞いたり、平和の願いを込めた手作り缶バッジ作りも行いました。最後は、館長から修了証書が授与されました。

被爆者の思いに会える場所であること、子どもたちに知ってもらうよい機会となりました。

## 秋月平和賞に被爆者4団体 ながさき平和大集会で表彰



核兵器廃絶を目指す市民が集う「ながさき平和大集会」が7月13日、原爆資料館ホールで開かれ、長崎の被爆者4団体に「秋月平和賞」が贈られました。

平和活動に功績のあった個人や団体を表彰する「秋月平和賞」を受賞したのは、長崎原爆被災者協議会、長崎原爆遺族会、長崎県被爆者手帳友の会、長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会です。

4つの団体は、全ての国・地域に核兵器禁止条約への参加を求めた「ヒバクシャ国際署名」を行うなど、核兵器廃絶を求める国際世論に大きく寄与したことが評価されました。

市民ら約130人が参加し、平和のために行えることを考える機会となりました。

## 被爆者の思いを歌声にのせて 第40回長崎平和音楽祭



今年で40回目を迎えた「長崎平和音楽祭」が7月6日、長崎市平和会館ホールで開かれました。

第1部は太平洋戦争時に長崎―上海航路に就役していた貨客船「長崎丸」が、長崎港を目前に機雷に接触し沈没した史実をもとに作られた歌劇「上海から汽笛が聞こえる」が上演されました。劇中では当時の上海で盛んだったジャズが何曲も生演奏で流れました。

第2部は「被爆者の思いを歌声にのせて」をテーマに、故渡辺千恵子さんの半生を合唱と語りで構成した組曲「平和の旅へ」が披露されました。舞台上には市民合唱団80人余が並び、反核平和を願う歌声が会場に響き渡りました。

# 被爆80年記念事業は秋も続きます!

## 平和と音楽の調べ 長崎ピース交響詩 ～音楽が奏でる愛の4楽章～

- 10/12(日) 第1楽章 愛と平和を歌で奏でる
- 10/26(日) 第2楽章 長崎の若きアーティストが奏でるピースアンサンブル
- 11/2(日) 第3楽章 言葉と音楽で平和を奏でる
- 11/9(日) 第4楽章 愛と希望を音楽で奏でる  
フィナーレ

原爆資料館ホール 15時開演 **入場無料**



## 国連軍縮週間行事 市民のつどい

ステージイベントや平和に関連する様々なブースをつくり市民に参加してもらい、平和の大切さについて考えてもらう。



10/25(土) 10:30~14:00 ※雨天決行  
原爆資料館前階段下広場・平和学習室 **参加無料**

## フォトジャーナリスト 安田菜津紀 平和講演会

混迷する世界情勢や日本被団協のノーベル平和賞受賞を受け、戦争のない平和な世界の構築をテーマにした講演会。



11/16(日) 13:00~15:00  
原爆資料館ホール **入場無料**

## 原爆死没者名簿筆耕 森田孝子大書道展

被爆者の言葉に込められた悲痛な叫びを書にしたためて展示し、書道を通して平和について考えてもらう。

10/18(土)~10/26(日)  
追悼平和祈念館・  
交流ラウンジ(B2F)  
**入場無料**



## ピーター・タウンゼントDAY 映画と朗読・音楽で紡ぐ平和への想い

「ナガサキの郵便配達組曲」の演奏・朗読とともに、映画「長崎の郵便配達」を上映。ピーター氏の長女イザベル・タウンゼント氏によるトークイベントも。

11/22(土) 13:00~17:00  
原爆資料館ホール  
**入場無料**



No. 34



Peace Wing Nagasaki  
会員の広場



国際交流部会長 白石克文

平和への願いは人や国により異なりますが、一人ひとりが描く平和に、無理なく継続的に取り組むことが重要です。多くの皆さまに「つどい」にご参加いただき、平和のバトンをつないでいただければ幸いです。

「つどい」に参加して、被爆者から直接被爆体験を英語で聞き、心を動かされ、子ども向けの絵本を制作・出版したアメリカ人留学生や、4か月余をかけ千羽鶴を折ったフランス人留学生もいました。若い彼らを突き動かしたのは、平和への願いが生まれたからでしょう。

部会員たちも、「戦争のない祖国へ帰りたい」「ウクライナ」、「法に守られ自由に暮らしたい」「ミャンマー」、「偽りの平和より正義のための戦いを」(シリア)という講話者の言葉に触れ、胸が熱くなりました。世界には想像をはるかに超える苦難があることを再認識し、自らの暮らしを深く考える契機ともなりました。

「平和のバトン  
長崎から世界へ、世界から長崎へ」

国際交流部会では、被爆者や長崎

在住の外国人の方をお招きして、毎月「国際交流のつどい」を開催して

おります。

「つどい」に参加して、被爆者から

直接被爆体験を英語で聞き、心を動か

かされ、子ども向けの絵本を制作・

出版したアメリカ人留学生や、4か

月余をかけ千羽鶴を折ったフラン

ス人留学生もいました。若い彼らを

突き動かしたのは、平和への願いが

生まれたからでしょう。

部会員たちも、「戦争のない祖国

へ帰りたい」「ウクライナ」、「法に守

られ自由に暮らしたい」「ミャン

マー」、「偽りの平和より正義のため

の戦いを」(シリア)という講話者の

言葉に触れ、胸が熱くなりました。

世界には想像をはるかに超える苦

難があることを再認識し、自らの暮

らしを深く考える契機ともなりました。

平和への願いは人や国により異な

りますが、一人ひとりが描く平和

に、無理なく継続的に取り組むこと

が重要です。多くの皆さまに「つど

い」にご参加いただき、平和のバトン

をつないでいただければ幸いです。



# TOPICS! へいわトピックス

## 天皇ご一家 原爆資料館を訪問

天皇、皇后両陛下と愛子さまが9月12日、長崎原爆資料館を訪問されました。戦後80年の戦没者慰霊の一環で、天皇ご一家は爆心地公園で原爆落下中心地碑に花を供え犠牲者を慰霊したあと資料館を訪れました。被爆の実相を伝える展示品を見学したほか、当協会の理事で長崎原爆被災者協議会の田中重光会長や、同じく理事で長崎原爆遺族会の本田魂会長ら被爆者と懇談しました。また、交流証言者として被爆者の体験を語り継ぐ活動をしている長崎純心大学3年の松山咲さん、青少年ピースボランティアの一員で被爆遺構ガイドなどの活動をしている長崎大学2年の濱田尚平さんとも懇談し、若者らを励まされました。



写真提供 長崎市

## 海外原爆展ピースラーニングプログラム

追悼平和祈念館では7月13日～17日に「海外原爆展ピースラーニングプログラム」を実施しました。今年10月に海外原爆展を初開催するスコットランド・スターリング大学から3人を招き、さらに当協会が受け入れたICUのサービスラーニング受講生3人も一緒にガイド研修を行いました。長崎大学の高村昇教授による原爆後障害の講義、松本美都恵さんによる被爆体験講話、松田斉写真資料調査部会長による原爆写真研修など幅広い学びの機会を提供し、最終日の成果発表会で参加者は母国で被爆の実相と被爆者の思いを発信することを決意しました。



## 被爆80年体験記企画展「あの日 命をつなぐために ～被爆体験記で伝える救援と救護」

長崎の町に一発の原子爆弾が投下され、惨禍がもたらされたその大きな混乱の中で、負傷者を迅速に安全な地域へ搬送した人たち、また不眠不休で懸命に救護にあたった人たちがいます。今回はその方々が残した体験記や資料をとおして、被爆の実相と平和への思い、命の尊さを伝えます。ぜひご来場ください。

期間 令和7年11月23日(日)～令和8年1月31日(土) <12月29日～31日は休館>  
場所 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 地下2階 交流ラウンジ (入場無料)



所蔵…長崎原爆資料館  
制作…寺井邦人

## 世界の現役核弾頭の数 (令和6年度より「全保有核弾頭数」から「現役核弾頭数」表示に変更)

	ロシア	米国	中国	フランス	英国	インド	パキスタン	イスラエル	北朝鮮	合計
2025年6月1日	4,310	3,700	600	290	225	180	170	90	50	9,615

情報提供：長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

## 寄附者紹介

ありがとうございます

- (株)ひろたか 十二万円 (敬称略)
  - 福岡県議会民主県政県議団 三万円
  - 北野健一郎 二万円
  - 小川貴尋 一万円
  - (株)弘進テック 一万円
  - 庄司理佳 一万円
  - 橋本里枝 一万円
  - 山中弘幸 一万円
  - 杉浦主依 五千元
  - LIBEREA(ラスガワユキト) 五千元
  - 柴田真優 二千元
  - 竹下淳也 千円
  - 江頭洋子 五三〇円
  - 相澤美智子 五〇〇円
  - 河村亮 一五〇円
  - 匿名(8件) 二二三万六、七五四円 (令和7年6月～8月分)
- 皆様から寄せられたご寄附は、平和推進事業の貴重な財源として活用させていただきます。ぜひ当協会にご寄附をお寄せください。

## 会員数報告

- ◎ 維持会員 1、109名
- ◎ 賛助会員 184名
- ◎ 学生会員 111名

令和7年8月31日現在 賛助会員(団体法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。  
ご支援ご協力誠にありがとうございます。会員拡大にもご協力をお願いします。

当協会の活動は皆様の会費に支えられています。

お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。どうか、事務局までご連絡ください。

本紙は再生紙を使用しています。 令和7年9月30日発行